

# 2023年度自己点検・自己評価報告書

## 学校の教育目標

京都芸術デザイン専門学校では、文藝復興を担う人間の育成という基本使命に基づき、「社会が真に欲する、より専門的で人間性のゆたかな人材を育成する」ことを教育目標として掲げている。素直さ・礼儀正しさ・社会規範、そして人の痛みが理解できる力を育むと共に、他者を受け入れ他者から受け入れていただく為のコミュニケーション力を身に付けさせるといった人間性の教育(社会人基礎力)、そして、現場を見る・聴く・体験する事を通して、社会の課題や要望に応える事ができるデザインの力(デザイン基礎力)を持った自立した人材輩出に努めている。

本校の教育目標の本質は、学生が、自分自身の未来を切り拓く勇気が持てるまでの本格的な専門技術力と人間力を身に付けさせることで、全業界・全企業が求める人材を、職業一体型教育プログラムとして専門授業の中で企業と連携したカリキュラムへの取り組みを通じて学んでいる。その教育目標を実現する事が、社会や組織の活力となるような前向きにチャレンジし続ける人材や、付加価値を創造できる利益獲得型の人材を輩出することにつながり、我国の芸術文化の復興と発展に寄与する事ができると考えている。

## 2023年度に定めた取り組み課題

### 【広報学生募集】

- ・入学者385人の獲得
- ・カリキュラム再編による各コースの訴求ポイントの見直しと強化
- ・SNSを活用した認知拡大とブランディング強化
- ・外国人留学生入学生比率10%確保
- ・オンラインイベントの体系化と拡充
- ・海外向け短期遠隔プログラムの試験運用の開始
- ・藝術学舎との連携によるオンライン完結型講座の開設と安定運用

### 【教学】

- 1) 実践型人材を育成する社会連携教育深化
  - ・職業一体型教育プログラムの再設計
  - ・学内と企業に分散して授業を行う実践型分散授業の一部コース試験導入
  - ・異業種連携によるデザイン思考実践プログラムの開発
- 2) Society5.0に向けた人材養成機能の強化
  - ・ビジュアルデザインコース、キャラクターデザインコース、コミックイラストコースの新カリキュラム設計
  - ・インテリアデザインコース、ファッションクリエイトコース、ハンドメイドコースのカリキュラム検証
  - ・全学共通プログラムの再設計
- 3) 教育改革に伴う教育の質保証・向上の推進
  - ・職業実践専門課程の再申請と情報公開データ整備
  - ・全学共通プログラムのルーブリック評価導入準備
  - ・学修成果評価制度の再構築と可視化

評価:適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

大項目	点検項目		現状の取り組み内容	点検評価
1. 教育理念・目的・育成人材	1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか	文藝復興を担う人間の育成という理念、人間教育の上に専門教育があるという価値観、社会が真に欲するより専門的で人間性のゆたかな人材を育成するという目標を明確に定め、実現に向けて努力している。	4
	1-2	学校の特色は何か	強固な産学連携企業ネットワークをもつ京都唯一のデザイン総合校として、インターンシッププログラムや企業連携授業の拡充を推し進め、社会連携型教育を特色としている。	4
	1-3	社会のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか	コースごとの教育課程編成委員会及び進級卒業制作展における企業評価アンケートにより、社会が必要としている育成人材像を明確している。	4
	1-4	教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	教育課程編成委員会にて外部委員から業界が必要とする人物像を開き取り、カリキュラムと目標の方向付けを行っている。企業連携による授業運営体制拡充の一環として、2021年より外部評価委員を設置。社会や業界のニーズを教育に反映するため、企業プレゼンイベント(ふれこん、K展)に審査員として参加。	4
<p>●課題、改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育改革の推進を目的に、入学者の受け入れや教育課程編成、卒業認定における方針を見直し、あらたに三つのポリシーとして策定する。</li> <li>・方針の見直しに伴い、実践型人材を育成する教育プログラムの再設計を行う。</li> </ul>				

大項目	点検項目		現状の取り組み内容	点検評価
2. 学校運営	2-1	目的に沿った運営方針が定められているか	2022年度からの新たな中期5ヵ年事業計画を策定し、年度毎の事業計画に取り組んでいる。	4
	2-2	事業計画に沿った運営方針が定められているか	教育計画及び部署事業計画は、学園中期計画に基づいた各部門の事業計画に沿って定められている。教育計画、部署事業計画は専門学校の意思決定会議である「全体会議」にて承認されるほか、学園執行部の承認をもって決定する。	4
	2-3	運営組織や意思決定機能は、効果的なものになっているか	意思決定機能については、各種会議体を構成し、毎週会議を行っている。内容や段階によって効果的な方針決定ができる体制を整えている。	4
	2-4	人事・給与に関する規程や制度は整備されているか	給与明細等閲覧システムを導入し、明細書の廃止などペーパーレス化を行っている。教員人事制度の検討と教職員の時間外労働の改善を実施。	4
	2-5	個人情報に関するコンプライアンス体制が整備されているか	新入生対象にインターネット・情報の取り扱いの注意喚起し、情報を適切に判断し、運用できる能力を養っている。機密情報や個人情報などの漏えいなどを防ぐため、データ送受信ルールの策定およびファイル転送システムを導入。情報セキュリティに関する研修を教職員が受講をし事故を事前に防ぐ取り組みを行っている。	4
	2-6	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	学校WEBサイトを通じて教育活動の公開をしている。	4
	2-7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	基幹システムでの情報管理の一元化と、業務の効率化を実施している。Google クラウドを導入し、スケジュール、授業に関する情報共有機能等を図っている。教職員間のコミュニケーションの透明性と効率化を向上させるため「Slack」を導入した。	4
<p>●課題、改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DX化を推進するため、業務の効率化に資する教職員室レイアウトの実現に向けた取り組みに着手する(有線接続の電話機を無線接続に変更等)。</li> <li>・データに基づいた質の高い意思決定を行うため、BIツールの導入に着手する。</li> </ul>				

評価:適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

大項目	点検項目	現状の取り組み内容	点検評価	
3. 教育活動	3-1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか	教職員総会や定期的な研修を通じて、学園の理念やビジョン、中期計画に基づいた事業計画を教職員に共有し、共通の認識をもって教育課程の編成を実施している。	4
	3-2	教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて正しく方向づけられているか	コースと様々な企業との連携と各種委員会により情報を集約。コース別育成人材像の方向づけを行っている。デザイン思考を育成するための教育プログラムを全コースに導入し、K展等で外部評価委員の意見を伺っている。	4
	3-3	カリキュラムは体系的に編成されているか	全コース共通の「デザインプロセスにおける4つの能力」を基軸としたカリキュラムを体系的に編成している。ビジュアルデザイン、コミックイラスト、キャラクターデザインの3コースでは社会の急速なデジタル化に対応する学生の育成に向けて、科目の精選及び企業連携科目のガイドラインを策定するなど、体系的かつ一貫性のあるカリキュラムを構築し、コース合同の習熟度別クラスを試験的に導入した。インテリアデザイン、ファッションクリエイト、ハンドメイドの3コースについては、新カリキュラム設計のための検証を行った。	4
	3-4	キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	専門教育とキャリア教育の要素を融合させた「年2回のインターンシップ、正課科目内の企業連携授業、企業プレゼンイベント(ぶれこん、K展)などが連動し、入学から卒業まで一貫したキャリア教育が行える教育プログラムを構築している。	4
	3-5	関連分野における実践的な職業教育(産学連携授業、インターンシップ、実技実習等)が体系的に位置づけられているか	社会で必要とされる力を身につけるため、企業と連携した企業プロジェクトを積極的に実施。インターンシップを必修単位として設定し、実践による職業教育を継続している。オンラインの活用や現地見学を通して、企業等に赴き課題に取り組む実践型分散授業をインターンシップに導入した。	4
	3-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	半期毎に最終授業日に科目別アンケートの配布及び回収を行っている。結果集計後、各教員へのフィードバックを行い、授業品質の向上を図っている。非常勤教員を巻き込み外部評価から見えた指導課題を全教員で改善に取り組んでいる。	4
	3-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定基準については、全学生に配布する「学生手帳」と本校ホームページ、「シラバス」に明確に記載している。2026年度には学修成果を含む教育成果の広報視点を備えた可視化を目指しており、その前段として、教員だけでなく学生自らも学習内容の習熟度を確認し、目標の達成度を判断・認識することを目的とした、ルーブリックを導入した。また、成績評価指標の見直しを図るため科目の再編成を行い、コース間の標準化に取り組んだ。	4
	3-8	資格取得の指導体制はあるか	業界特性等により必要と判断した資格については、授業科目または集中授業により取得に向けた支援を行っている。	3
	3-9	人材育成目標の達成に向けての要件を備えた教員を確保しているか	毎年策定する教育計画に基づき、求人募集などを通じて充足させている。企業ニーズを反映したコースごとの方針に則り、最新の業界情報を踏まえた効果的な教育を実践できる人材を適宜採用している。	4
	3-10	教員の指導力育成、職員の能力開発など、教職員の資質向上のための研修等が行われているか	年間4回のFD研修と年1回以上の教職員研修を行っている。ビジネススキル・知識習得研修、自己研鑽支援等の職員研修を年1回実施している。	4
<p>●課題、改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独自教育プログラムのプロセスを可視化するなど、教員の理解を促進し教育の標準化と定着を図る。</li> <li>・導入したルーブリックを含む現行の評価指標の検証と改善を行う。</li> </ul>				

評価:適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

大項目	点検項目		現状の取り組み内容	点検評価
4. 学修成果	4-1	就職率の向上が図られているか	年2回のインターンシップのほか、オンライン選考会や独自合同企業説明会など、充実した就職支援コンテンツを用意している。早期活動を支援するキャリア講座の充実や異業種企業を加えた企業説明会を定期的実施した結果、2023年度の就職率は99.6%となった。1年次前期から正課科目内の企業連携を拡充し、就業意識を早期に醸成。担任授業でのキャリア教育は会議を通じて適宜改善し、質向上及び質の担保を行っている。	4
	4-2	退学率の低減が図られているか	出席状況や課題提出状況などについて教職員間で情報を共有し学生対応している。出席率等に応じて個別面談を行い保護者とも連携しながら退学率の低減を図っている。	4
	4-3	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	担任授業の中で学生の取り組みを把握。卒業生は企業訪問時に評価や活躍を把握している。	4
	4-4	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	特別講座等に卒業生を迎え、就活、キャリアの変遷と成長、現在の幅広い仕事内容・求められるスキルについてお話しをいただき、在校生にフィードバックをしている。	4
<p>●課題、改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン思考により新たな価値を創造し、提案できる人材の養成を目的とした実践プログラムの開発に着手する。</li> <li>・進路の質向上を目的とした新カリキュラムをビジュアルデザイン、キャラクターデザイン、コミックイラストの3コースで導入する。</li> </ul>				

大項目	点検項目		現状の取り組み内容	点検評価
5. 学生支援	5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	1年次前期より始まるキャリア授業の実施とあわせ、担任制による日常指導及び教学課主導による就職相談会の実施など、全体への指導と個別指導を重ねて行っている。京都芸術大学との連携強化による併願入試制度、併設校編入制度を設けている。	4
	5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	担任やコース助手だけでなく、職員による支援体制も整っている。外部機関との連携を行い、就職希望者を。京都芸術大学への編入希望者に対して大学アドミッションオフィスが直接サポートするなど支援体制を構築している。	4
	5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	特待生・奨学生制度を整備しているとともに日本学生支援機構奨学金、入学金免除などの他、経済的な事情により学費の一括が困難な場合には、指定の手続きにより分納、延納の対応も行っている。また修学支援新制度対象校に認定されている。	4
	5-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	学校保健法に従い、毎年4月に定期健康診断を実施。傷害保険に加入し、通学時や授業中の怪我や事故に対する学生の健康管理に努めている。	4
	5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	自治会活動の運営目的等を明確化し、定例会議により活動状況の確認を行っている。また、活動における機材の貸し出しや提供など、学生が課外活動しやすい環境を整備している。学校公認サークル設立についての制度を整え、学校ホームページに設立手順を掲載をした。	4
	5-6	学生の生活環境への支援はあるか	気軽に相談できるように教員だけでなく、職員も相談を受ける体制を整備している。また、公的機関の支援金を申請し学生に還元している。外部の学生生活支援コンテンツにも積極的に申請するなど、幅広く支援に取り組んでいる。疾患等を抱える学生の生活支援として、発作時の緊急手当等講習を全教職員向けに行っている。	4
	5-7	保護者と適切に連携しているか	担任制を導入しており、学生と定期的な面談を実施している。迅速なサポートができるよう、教職員間で情報共有し、必要に応じて保護者とも連携している。	4
	5-8	卒業生への支援体制はあるか	定期的に同窓会役員との会合を行い、卒業生支援策を3つ策定。企業連携展(K展)で「同窓会賞」を新設し、在校生の活躍につなげる取り組みを行っている。OBOGパーソナルデータのシステム運用を行い、LINEで同窓会年間スケジュール、総会などを案内。展覧会補助制度、就職・再就職活動支援、印刷支援制度等を構築した。	4
<p>●課題、改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤労学生控除の対象校認定へ申請し、勤労学生の経済的負担を軽減する。</li> <li>・同窓会と連携して、創作イベント補助制度等、卒業生支援策の拡充を検討する。</li> </ul>				

評価:適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

大項目	点検項目		現状の取り組み内容	点検評価
6. 教育環境	6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	学生数の増加に合わせ、施設環境の整備を図っている。教室収容人数や1授業あたりの対応可能人数など、複数年度を見据えての調整、計画を学園全体で進めている。授業用・学生貸出用のハイスペックなノートパソコンおよびプロジェクターを増設。授業運営の向上のため、学内Wi-Fi環境を強化した。	4
	6-2	学外実習、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	インターンシップ事前学習を実施し、体系的な体制を整えた。学内と企業に分散して行う実践型分散授業を導入している。	4
	6-3	防災に対する体制は整備されているか	防災組織を組み、年に1回の防災訓練を実施。避難場所と経路の確認や、役割確認、消火器の使用方法などを実地で訓練している。半期毎での教室整備や点検を行い教育上の必要性に対応できる整備を更に行っている。学生向けの防災ビデオとパンフレットを在校生サイトに掲出。防犯カメラを出入口に繋がる階段・商品販売教育使用の店舗前等にも増設し、複数箇所を監視できるモニターを設置した。	4
	<b>●課題、改善方策</b> ・更なる学修環境の美化を図るため、掃除用ロッカーや掃除道具の買い替えを行い、授業に集中できる環境を整える。			

大項目	点検項目		現状の取り組み内容	点検評価
7. 学生の受け入れ募集	7-1	学生募集活動は、適正に行われているか	適正に行われている。 校内ガイダンスの参加を強化するなど学外での接触機会の創出とSNSを活用した認知拡大およびブランディング強化を行った。受験対象学年の対面接触者数が2,491名で昨年比16.7%増加した。非接触者数は536名で前年から10.1%増となり、来校者全体では5.5%増加した。	4
	7-2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	教職員だけでなく在校生も動員することにより具体的なリアルな学校生活を知る機会を設けている。就職率・進学率等を公開。具体的な就職企業先、業種も提示することで受験生とのミスマッチを防いでいる。HPを改修し、学校情報の明瞭化を図っている。	4
	7-3	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	願書等の記載事項、高校等での調査書・成績証明書の内容などにより、状況に応じ、個別での面接を書類選考者にも実施。入学前のミスマッチを防ぐために適切に判断している。	4
	<b>●課題、改善方策</b> ・重点地域の再編成と対面接触機会の創出と非接触の認知向上施策に取り組む。 ・体験講座参加者の出願率向上に取り組む。 ・意欲の高い留学生確保に向けて入試制度の見直しを行う。			

大項目	点検項目		現状の取り組み内容	点検評価
8. 財務	8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	学生募集は好調を維持している。また、予算に基づく適切な収支のバランスが保持でき、財務基盤の強化が図れている。入学者の増加に伴い、財務基盤が充実。	4
	8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	予算、収支計画については、部署ごとに年間計画が策定され、計画的に執行されている。	4
	8-3	財務について会計監査が適切に行われているか	月次報告書を経理課とチェックする体制を整えている。また、期末に監査法人による執行状況のチェックを実施している。修学支援新制度の利用学生が増加に伴い、事務手続きを適切・迅速に対応。2025年度からの修学支援新制度の拡充に向けて、事務手続きのフローの見直しを行った。	4
	8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	財務状況をHPで公開している。	4
	<b>●課題、改善方策</b> ・修学支援新制度の拡充を受け、業務効率化を図るため学納金システムのリプレースを検討する。			

評価:適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

大項目	点検項目	現状の取り組み内容	点検評価
9. 法令等の遵守	9-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
	9-2	個人情報に関し、その保護の為の対策がとられているか	4
	9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
	9-4	自己評価結果を公開しているか	4
<b>●課題、改善方策</b> ・インボイス制度と電子帳簿保存法に適正に対応した業務フローを確立する。			

大項目	点検項目	現状の取り組み内容	点検評価
10. 社会貢献・地域貢献	10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
	10-2	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)受託等を積極的に実施しているか	4
<b>●課題、改善方策</b> ・専門実践教育訓練給付金の対象講座への申請を行う。			

大項目	点検項目	現状の取り組み内容	点検評価
11. 国際交流	11-1	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4
	11-2	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
	11-3	留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3
	11-4	学修成果が国内外で評価される取り組みを行っているか	3
<b>●課題、改善方策</b> ・授業理解度を高めるため、日本語学習プログラムを見直し検討する。 ・留学生の増加に伴い、日本国内で病気またはケガをサポートする留学生インバウンド保険の加入を検討。 ・海外事務所を通じた学修成果の発信強化を検討。			